文部科学省における教育データ項目に関連した調査研究の実施状況

文部科学省

１．教育情報システムの在り方に関する調査研究

教育委員会や学校が保有している情報システム（教育情報システム）の全体像を把握し、これらシステム間の情報連携を円滑に進めるためのシステム的な課題等を整理することを目的に、調査研究を実施。

（主な調査研究項目）
①　教育情報システムの現状整理
②　各システムの主なデータ項目の洗い出し
③　システム間連携の目的
④　システム間連携を進めるための課題

２．先進自治体等における教育データ利活用の実態調査

①　教育委員会・学校等におけるデータ整備の観点から、積極的に教育データを活用しようとしている先進的な自治体で、どのような目的で、どのようなデータ項目を取得しているのかを調査。
②　あわせて、海外において整備しているデータ項目の事例調査

Ⅰ．教育情報システムの在り方に関する調査研究

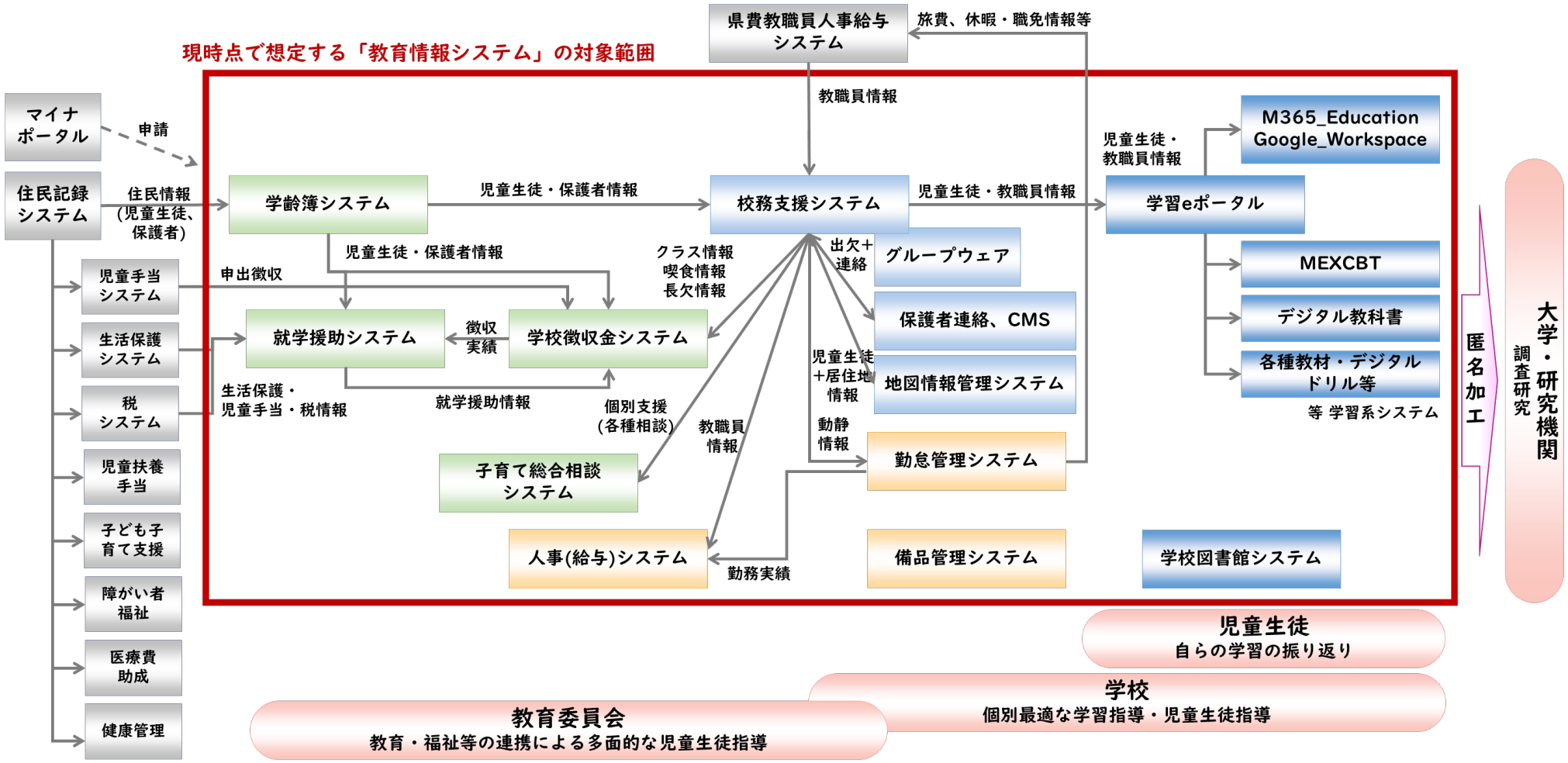
文部科学省

趣旨　教育委員会や学校が保有している情報システムの全体像を把握し、これらシステム間の情報連携を円滑に進めるためのシステム的な課題等を整理する。

①教育情報システムの現状

本調査研究における「教育情報システム」とは、教育委員会及び学校が利用するシステムの総称とする。

※現状として、文科省として「教育情報システム」の定義をしているわけではなく、自治体によって、システム化の程度や構成も多様であることに留意



② 各システムに搭載されているデータ項目例

教育委員会・学校が使用している情報システムが、それぞれどのようなデータ項目を保持しているのか、また、どのようなネットワーク条件の中で運用されているのか等を調査。

＜各教育情報システムの概要、取得データ項目、利用ネットワーク等の情報の例＞

システム名	システム概要	主なデータ項目	ネットワーク					
			マイナンバー利用事務系	LGWAN接続系	インターネット接続系	校務系	校務外部接続系	学習系
学齢簿システム	児童・生徒の就学学校、区域外就学、異動履歴、保護者情報などの就学情報を管理し、通知書や学齢簿・各種一覧表など帳票出力に対応	・児童生徒氏名　・氏名カナ　・通称 ・性別　・生年月日　・住所　・保護者　・DV　・就学履歴　・特別支援 ・交流学校 ・外国人 ・不就学 ・転出入	○					
就学援助システム	就学援助費、特別支援教育就学奨励費の申請受付から認定、費目ごとの援助費支給までを管理。要保護・準要保護それぞれの認定の可否を自動判定し、定額・実費や実費上限での支払いに対応 各種通知書や各種一覧、集計表などの出力	・児童生徒氏名　・就学世帯 ・勤務先　・収入金額　・税情報 ・口座情報 ・生活保護受給有無 ・就学援助受給有無	○					
学校給食費管理システム（公費）	学校給食費を地方公共団体の会計に組み入れる「公会計制度」に対応。 年間の徴収状況を把握し、請求・収納・未納(督促・催告)・還付を管理。 就学援助・奨励費対象や長子外児童・生徒の減免の管理	・児童生徒氏名・納付義務者 ・世帯情報　・兄弟情報 ・口座情報　・要保護、準要保護 ・未納、督促、催告　・交渉記録 ・アレルギー　・献立　・喫食情報 ・教職員氏名	○	○				
学校徴収金管理システム（私費）	学年・学級費、修学旅行積立金、PTA会費等の年間の徴収状況を把握し、請求・収納・未納(督促・催告)・還付を管理 就学援助・奨励費対象や長子外児童・生徒の減免の管理	・児童生徒氏名・納付義務者 ・世帯情報　・兄弟情報 ・口座情報　・要保護、準要保護 ・未納、督促、催告　・交渉記録 ・アレルギー　・献立　・喫食情報 ・教職員氏名				○		
校務支援システム	教職員の日々の校務処理の効率化はもとより、児童・生徒の学籍・出欠・保健等様々な情報を一元管理し、きめ細かい指導とサポートを行うために情報を共有・活用	・児童生徒・学年・クラス・出席番号 ・出席番号・保護者・兄弟情報 ・特別活動　・アレルギー ・出欠、長欠、遅刻早退 ・テスト、評価、評定、所見 ・授業態度、宿題、持ち物 ・生活習慣、健康体力、自主自立 ・特別活動、クラブ活動、部活動 ・発育測定、歯科検診、視力、聴力 ・受診勧告、受信済 ・保健室来室、理由 ・体力測定結果 ・気づき情報　・転出入 ・教職員(氏名、担当クラス情報、免状他)		○		○		

③　システム・データ連携のパターンの想定（例）

教育情報システムの各データを連携させた場合に期待される効果を整理。
その上で、今後、データ連携を進めるにあたっての課題等を整理予定。

	内容	実現方法	連携するシステム・データ																		
			学齢簿	就学援助	学校徴収金	校務支援	ｸﾞﾙｰﾌﾟｳｪｱ	学習eポータル	M365・GWE	MEXCBT／ﾄﾞﾘﾙ・教材	子育て総合相談	住民記録	児童手当	児童扶養	子ども子育て支援	障がい者福祉	生活保護	医療費助成	税	健康管理	外部機関等
プッシュ型支援	受給対象者を申請に基づくのではなく、保護者にプッシュ型で支援制度の活用を促すことができる。	税情報（例えば、対象者か否かを判別する仕組みを導入）と連携することにより対象者を洗い出す。	○	○															○		
業務改善	各システムで二重入力することなく、間違いなく情報受け渡しすることができる。新入生、年度更新に係る作業負担が減る。	児童生徒名簿情報（氏名、フリガナ、通称、保護者、住所、世帯等）を校務系や学習系のシステムに連携。	○	○	○	○		○	○												
業務改善	就学援助側と学校徴収金側とで二重入力することなく、間違いなく情報受け渡しできる。	学校徴収金で入力した情報を就学援助システムに連携することで、就学援助対象者の実費精算対象費目（例えば校外学習や部活動等）・額を把握。		○	○	○															
リスク管理	要見守り対象候補の児童生徒の特定及び事前対応の実現。	学校健診データ、虫歯情報等、様々な情報から、生活困窮者・虐待等のリスクを自動判定する。				○															
プッシュ型支援	（就学援助申請など）申請が苦手な人に対する申請手続きを、プッシュ型で支援。	児童情報と家庭情報の蓄積により情報共有し、対象者を絞り込む	○	○	○	○					○	○	○		○		○		○		○
業務改善	テストの採点と、集計等に係る業務負担が軽減される。	テストをオンライン化し、その結果を校務支援システムに連携する			○				○												